

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第487号 平成25年2月5日

## 自然大学院大学

知床がユネスコの世界自然遺産に登録されたのは、2005年7月17日の事です。知床の世界自然遺産登録は、長年にわたって知床の自然を守ってきた多くの人々の苦勞が報われた瞬間でしたが、同時に多くの道民にとっても、北海道の自然が如何に豊かで、世界に誇るべきものなのかという事を再認識する機会となりました。

今後、知床は、その素晴らしい自然を次世代の子ども達に引き継ぐため、科学的知見に基づき、幅広い観点から管理、保全が行われていく事でしょう。

一方では、今後も引き続き、地域の基幹産業である漁業や農業の振興を図りながら如何に自然を保全していくか、また、多くの観光客や登山家が訪れる知床を如何に適切に利活用していくか等の課題に取り組んでいく必要があります。

こうした中で、世界自然遺産知床をフィールドにして環境保全や野生生物の保護管理などを実践的に学ぶ「知床自然大学院大学（仮称）」の設立に向け設立財団が発足した（1月11日付朝日新聞から）事は、注目すべきです。

大学院大学というのは、通常学部を置かず大学院だけを置く大学のことを指します（学校教育法第68条）。現在では、総合研究大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、政策研究大学院大学など多くの大学院大学が設置されており、高度で専門的な職業人が養成されています。

「知床自然大学院大学（仮称）」については、その構想で

- ・形態は学校法人の運営による2年制の専門職大学院大学とし、施設は斜里町や羅臼町など知床周辺に設置する。
- ・学生、教員を合わせて120人以内を想定し、講義室や実習・研究棟、標本庫、図書館、学生会館などを配置する。
- ・カリキュラムは、大学院の博士前期課程か専門職大学院の修士課程を想定し野生生物学や地域経済学などの必修科目のほか、環境法学、エコツーリズム学などの選択科目も用意する。

とし、国や地方自治体における野生生物対策担当者、企業・団体の環境セクション担当者、環境NGO職員、発展途上国の環境保全担当者など幅広い分野で活躍できる人材を養成するとしています（1月11日付朝日新聞から）。

地球環境は人類の営みによって日に日に悪化しつつありますが、福島第1原発

事故や中国の大気汚染を見ても分かるように、環境問題は今や国境を越え、グローバルな広がりを見せています。

「知床自然大学院大学(仮称)」は、それが実現されれば、世界自然遺産という豊かな自然に抱かれながら環境について学ぶ事のできる「知の殿堂」となるだけではなく、知床から地球環境の保全や野生生物の保護の為に世界で活躍する人材を世に送り出すという意味でも、極めて重要な存在となる筈です。

「知床自然大学院大学(仮称)」は2017年度の開学を目指して始動しましたが、開学に当たっては多額の校舎整備の資金等を確保しなければならず、今後、なお紆余曲折があるかも知れません。しかし、財団設立者のお1人で元斜里町長の午来昌氏は「知床は生きた学問を学べる場だ。熱い思いを込め、開学に向けて努力したい」と語っておられますので、その夢が実現できるよう、道民の1人として応援したいと思います。(塾頭：吉田 洋一)